



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	デスティネーションとしてのニセコ町の諸相と展望：ニセコ町観光振興ビジョン策定にあたっての基礎調査より
Author(s)	高橋, 葉子
Citation	CATS 叢書 = CATS Library, 15, 15-23
Issue Date	2021-03-31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/82089
Type	departmental bulletin paper
File Information	CATS15_2.pdf



DESTINATIONとしてのニセコ町の諸相と展望

——ニセコ町観光振興ビジョン策定にあたっての基礎調査より——

高橋 葉子

ニセコ町商工観光課 参事

北海道大学観光学高等研究センター 研究員

1. ニセコ町における観光の現状

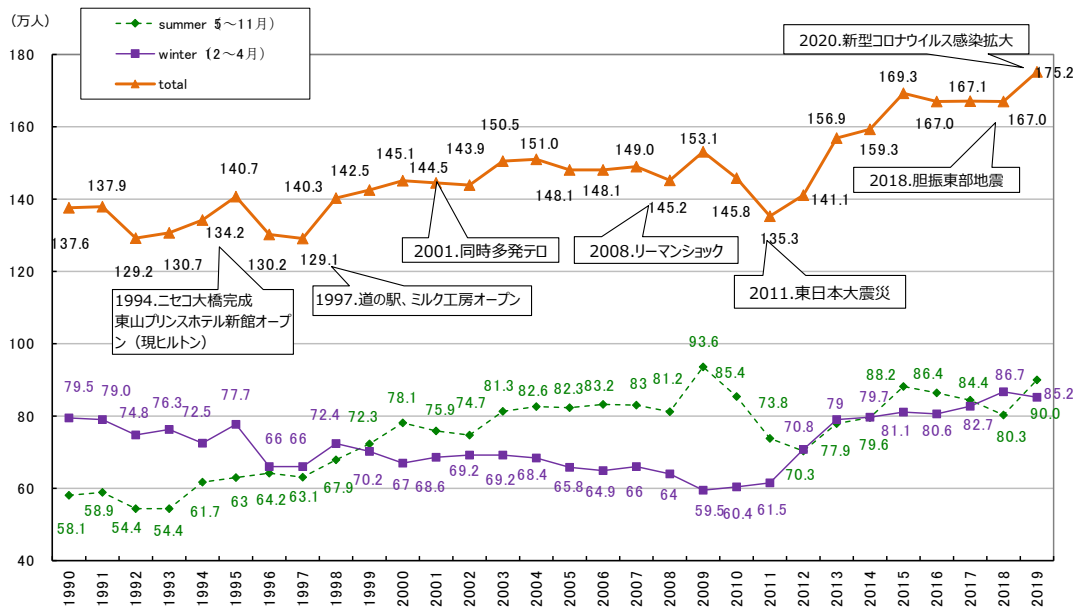
ニセコ町は、「インバウンド観光先進地」としてメディア等に取り上げられることの多い地域の 1 つであるが、実は観光入込客数の 9 割は国内客で占められている。また、1999 年を境に夏期の観光入込客数が冬期のそれを上回る年が増えるなど、近年は通年型のリゾート地としての性格を強くしており、「スノーリゾート」というイメージもニセコ町の観光の実態を十分に反映したものではなくなりつつある。

現在、ニセコ町では新たな観光振興ビジョンの策定を進めている。2009 年度から 2018 年度を計画期間とした観光振興計画から 10 年が経過し、観光を取り巻く状況は大きく変化している。世界経済に深刻な影響を与えている新型コロナウイルスのような感染症、北海道胆振東部地震や集中豪雨のような自然災害など、「観光リスクマネジメント」がより重要視されるようになった。また、「SDGs 未来都市」であるニセコ町においては、持続可能な観光（サステナブル・ツーリズム）も欠かせないテーマの 1 つである。誘客に取り組む上でのマーケティングの重要性に変わりはないが、短期的、量的な需要の維持や拡大ではなく、平準化や持続性を踏まえた需要の管理が求められていると言える。またそのための実効性の高い施策や推進体制も肝要である。

1.1 ニセコ町の観光入込客数の推移

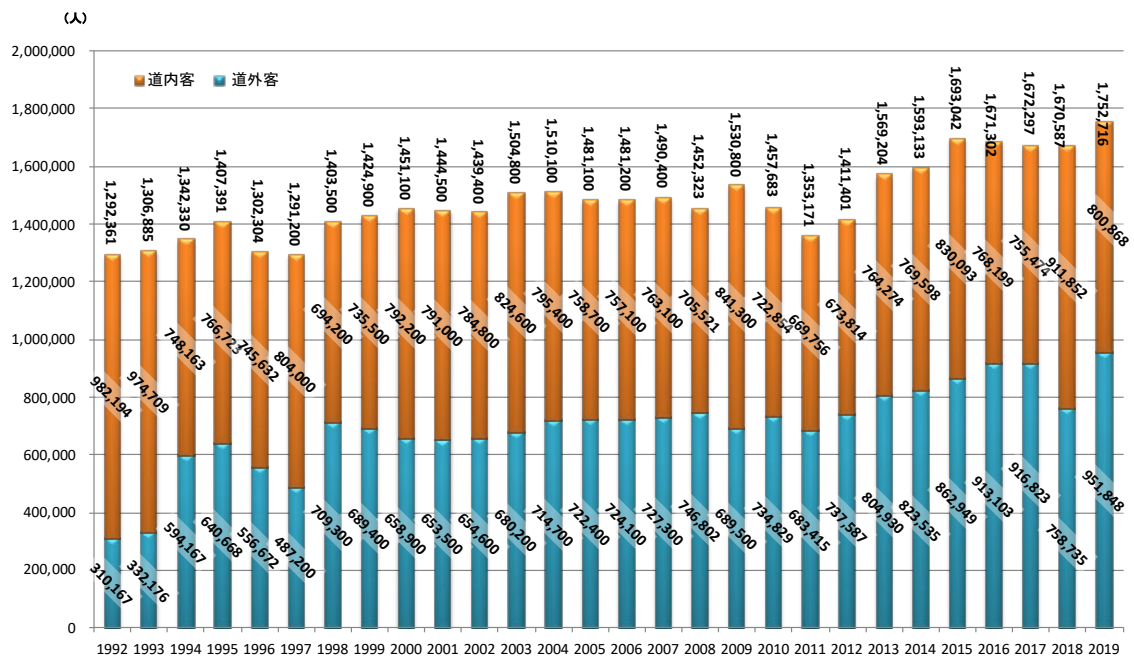
ニセコ町では、年度ごとに観光統計を取りまとめて、公表している。観光入込客数の推移（図 1）をみると、観光統計をとりはじめた 1990 年度以降、概ね増加傾向にあり、この 30 年間で約 1.3 倍に増加していることが分かる。直近の 2019 年度は、年明けの 1 月から 3 月こそ新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けたが、過去最高の観光入込客数である 175.2 万人を記録している。

観光入込客数の道内・道外の内訳をみると、2019 年度は 54.3%を道内客が占めている。道内客の割合は、バブル崩壊後に徐々に増加し、2008 年度には、初めて約半数を占めた。



出所：ニセコ町商工観光課

図1 観光入込客数の推移



出所：ニセコ町商工観光課

図2 観光入込客数の推移（道内・道内別）

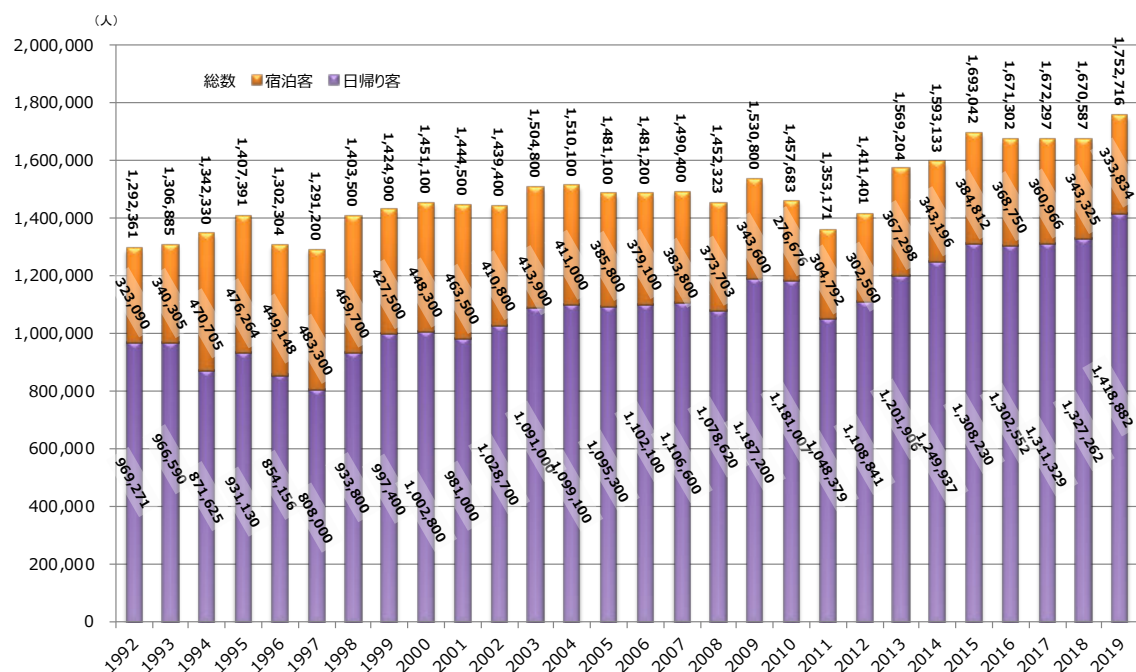
インバウンド観光の先進地といわれるニセコ町であるが、現在も札幌圏をはじめとした道内客がニセコ町の観光を支えていることがわかる。

1.2 ニセコ町の宿泊客数の推移

ニセコ町における2019年度の観光入込客数の内訳をみると、日帰り観光客141.8万人、宿泊客数33.4万人となっており、宿泊客数が観光入込客数の約2割を占めていることが分かる（図3）。

ニセコ町には、収容人数が100人を超える宿泊施設が8箇所、さらに収容人数が1,000名を超える宿泊施設も1箇所あり、町全体の収容人数は5,000人を超える。一方で、収容人数が50人未満の小規模な宿泊施設も60施設以上あり、特にリピーターに高い人気を誇る。アットホームな雰囲気を持ったペンションから、世界的なハイブランドホテルまで多様な宿泊ニーズに対応できる点がニセコ町の特長であり、それが国際的なリゾート地としての成長を牽引してきたといえる。

前述のニセコ町観光振興計画では、延べ宿泊者数の目標値が年間70万人泊に設定されている。これは1994年度に記録した過去最高水準の年間69.5万人泊を根拠としたものである。しかしながら、近年では宿泊者数は減少が続いている。また、ゴールデンウィークや夏休み、年末年始といった繁忙期以外の稼働率の底上げという目標も達成されていない。

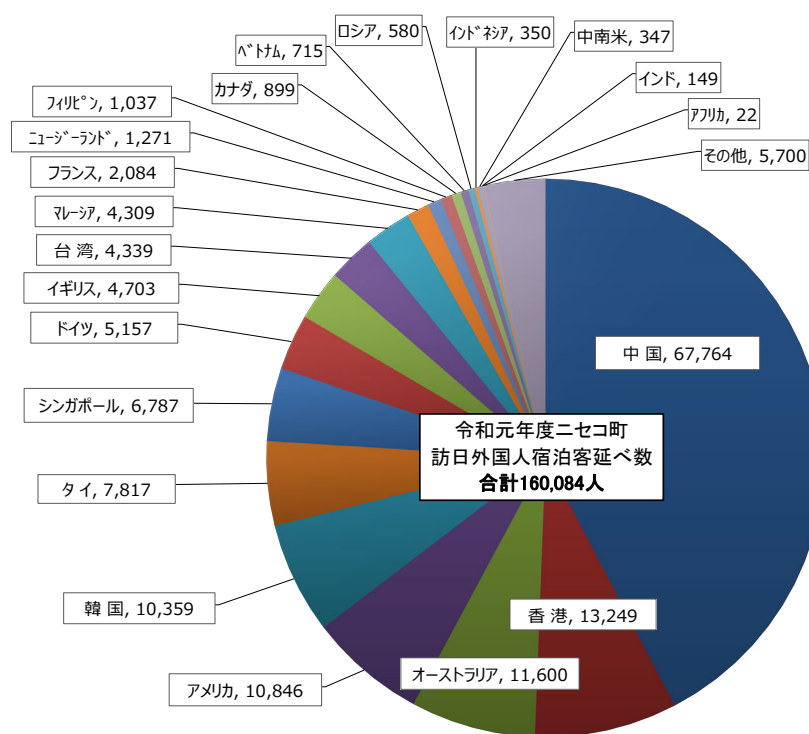


出所：ニセコ町商工観光課

図3 観光入込客数の推移（日帰り・宿泊別）

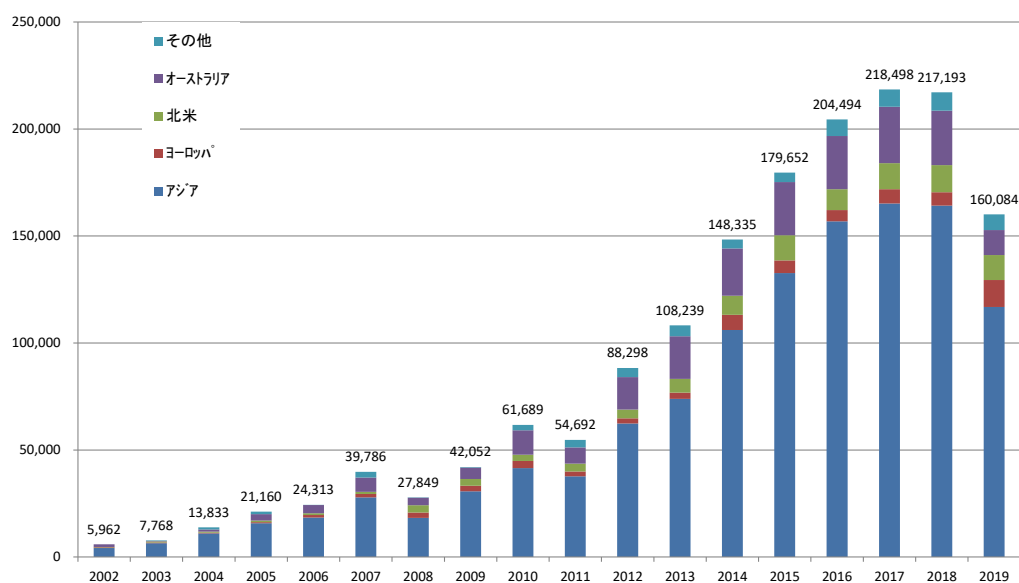
1.3 ニセコ町の外国人宿泊客数（延べ数）

ニセコ町における外国人延べ宿泊客数は、2019 年度、16.0 万人泊であった（図 4）。国籍・地域別の上位 3 位までをみると、中国が 6.7 万人で 41.8% を占め、次いで香港、オーストラリアとなっている。外国人の延べ宿泊客数は 2016 年度から 3 年連続で 20 万人を上回り、2017 年には過去最高の 21.8 万人を記録したが、2019 年度の 12 月から翌年の 3 月にかけては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により急激に減少した（図 5）。



出所：筆者作成

図 4 外国人宿泊客数（延べ数）の国・地域別の内訳



出所：筆者作成

図5 外国人宿泊客数の推移（延べ数）

2. ニセコ町観光の課題

2.1 季節変動の平準化と雇用の安定、サービスレベルの向上

前述のように、ニセコ町は通年型リゾートとして観光入込客数においては季節偏重を克服しつつあるが、宿泊客数においては、未だにオンシーズンとオフシーズンに大きな差がある。オンシーズンの中でも、夏休みとスキーシーズンに該当する8月、1月、2月には1ヶ月あたりの延べ宿泊客数が5万人泊を越えるニセコ町だが、4月と11月のオフシーズンには1ヶ月あたりの延べ宿泊客数は2.7万人泊まで低下する。その結果、観光産業関連事業者は、通年で従業員を雇用することに苦慮しており、それがサービスの向上に取り組む上で大きな障壁となっていると考えられる。持続可能な観光地経営を指向する上では、宿泊需要の平準化と雇用の安定化、それによるサービス水準の向上が必要不可欠であり、まずはオンシーズンとオフシーズンの間に当たるショルダーシーズンの宿泊需要喚起が求められる。

2.2 観光経済波及効果の向上

総務省「国勢調査」によると、ニセコ町における産業別の従業者数が最も多いのは、「宿泊業・飲食サービス業」で504人、次いで480人を占める「農業・林業」、262人を占める「卸売業・小売業」で（総務省 2015）。中でも「宿泊業、飲食サービス業」の従業者数は、町の人口5,056人（2015年12月）の約1割を占めており、観光入込客数の増加が一定の

経済効果をもたらしていると想定される。

一方で、ニセコ町企画環境課では、「地域経済分析システム（RESAS）」を活用して「ニセコ町が観光を通じてどの程度、実質的な経済効果をあげているのかを検証することを目的としたレポートを取りまとめている（ニセコ町企画環境課 2018）。同レポートによれば、ニセコ町の観光業がサービスの提供や商品の販売に当たり町外に対して支出している額は、観光を通じて町外から得ている額よりも大きいことが明らかになっている。つまり、この分析では、ニセコ町は観光を通じて「稼げていない」ということになる。

当然、雇用や食材、観光産業を支えるリネンクリーニング等の関連産業を町内ですべて調達することは難しいため、一定の観光消費が町外に流出することはやむを得ないとも言える。しかし、裏を返せば、町内の調達率をあげることで、域内の経済効果を高められる余地があるとも解釈することができる。既存の商品やサービス、具体的には町内の飲食店で提供される食事や販売される土産品等の原材料、さらにはこれらの事業に従事する人々を町内で確保することが、観光を通じた経済効果の最大化を図る上では重要である。

2.3 国際的な競争力の向上

ブッキング・ドットコム（2019）によると、今日では、世界の 86%の人がサステナブルツーリズムを希望していると回答しており、国際的には「サステナブルツーリズムに取り組んでいない観光地は 10 年後に淘汰される」とも言われている。特に欧米豪の富裕層ほどこうした傾向が強い。持続可能な観光は、新たなグローバルスタンダードであり、今後、地域間競争が激化する中で、観光客のニーズ変化に対応し、選ばれ続けるデスティネーションとなるためには、持続可能な観光に取り組むことが不可欠となっている。

ニセコ町は、国内外のスキヤーやスノーボーダーに知られた「パウダースノー」をはじめ、日本百名山「羊蹄山」をのぞむ絶景、アンヌプリ連峰や清流尻別川など、豊かな自然資源に恵まれている。そうした地域資源を観光のフィールドとして利用するだけでなく、観光客にもその価値を理解してもらい、地域資源の保全に対し、ポジティブな行動を奨励するなど、観光事業者や観光客にもサステナブルツーリズムに配慮した行動が求められている。これは自然資源だけでなく、地域の歴史・生活文化といった人文資源においても同様で、町民が地域資源を誇りに思うとともに、そこを訪れる観光客も地域資源への敬意を持ってもらえるよう、町民と観光客双方の行動変容のきっかけをつくる必要がある。

内部要因	強み (Strength)	弱み (Weaknesses)
	- 国内外のスキーヤー・スノーボーダーに知られた「パウダースノー」をはじめ、国際的リゾート地としてのブランド力、認知度の高さ - 日本百名山「羊蹄山」をのぞむ絶景、アンヌプリ連峰や清流尻別川など、豊かな自然環境 - 多様な観光体験（登山、スキー、ラフティング等のアクティビティや食（ワイン・日本酒・ビール）、温泉など）	- 新千歳空港や札幌などから、最短でも車で2時間程度かかる立地 - ニセコ町への交通アクセス、およびエリア内の域内の移動手段（2次交通、域内交通）が限定的（観光客のうち、8割自家用車・レンタカーを利用） - 多様な顧客ニーズを満足させるサービス提供（サービスの種類・品質）の不足
外部要因	今後の機会 (Opportunities)	今後の脅威 (Threats)
	- 北海道新幹線の延伸（新函館～札幌間、隣接する倶知安町に新駅開業予定）、および高速道路（後志自動車道）の延伸 - 札幌での冬季オリンピック・パラリンピックの開催（2026年の開催を招致中／アルペンスキー会場） - 宿泊施設（アマン、リッツカールトンリザーブ）、ウイスキー蒸留所（八海醸造）等の新規開業	- 地域間競争の激化（特に、冬季は、国内だけでなく、世界的なスキーリゾートが競合となる） - 今回の新型コロナウイルス感染症の世界的な流行など、観光リスク（疫病、自然災害、戦争や不況等）の発生によるインバウンド客の急激な減少 - 過剰な観光開発等による自然環境への負荷増大、およびオーバーツーリズム（混雑や満足度低下）

出所：筆者作成

図6 ニセコ町観光の強みと弱み（SWOT分析）

3. 改めて問われる「観光のあり方」

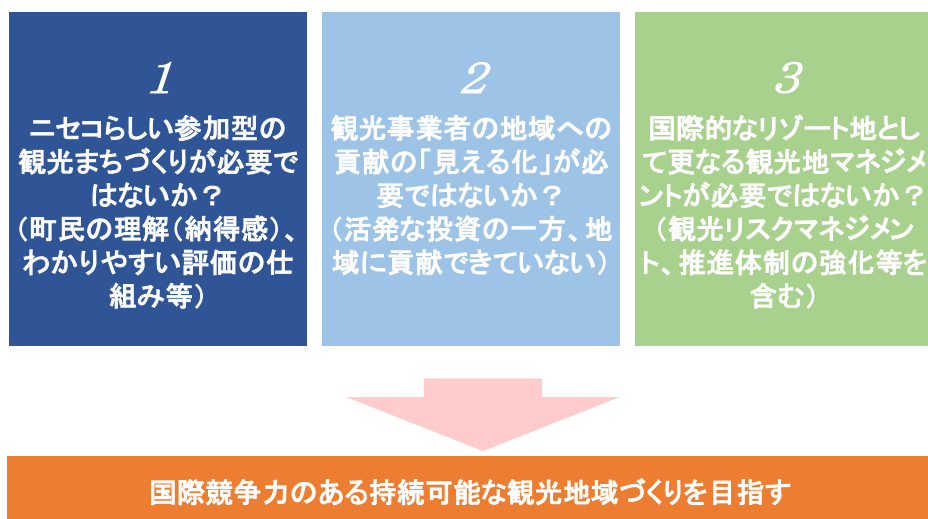
ニセコ町の観光を取り巻く状況が大きく変化するなかで、ニセコ町における「観光のあり方」について、改めて定義すべき時期にきているのではないだろうか。こうした問題意識に基づき本稿では、3つの政策課題を示したい。

1つ目は、観光分野における住民参加プロセスの一層の深化である。小樽商科大学が2018年にニセコ観光圏（蘭越町、ニセコ町、倶知安町）を対象に実施した「住民満足度調査」によると、住民の約5割が訪れる観光客に対して「良い印象を持っている」と回答している一方で、「良くない印象を持っている」と回答した人も約1割存在する（小樽商科大学グローバル戦略推進センター 2018）。また、観光客の増加や観光地化が及ぼす生活環境への負の変化のマイナス面としては「物価の上昇」が56.8%、「ゴミの投棄などにより自然・景観が壊される」が54.4%、「開発により自然が減少する」が48.8%となるなど、住民の観光への懸念は広範に及んでいる。観光地づくりに取り組む中で、町民の理解は極めて重要であり、町民にわかりやすい評価の仕組みをビジョンの中で提示できればと考えている。

2つ目は、観光事業者が地域に貢献していることの「見える化」である。観光事業者は地域資源を使って収益をえているのに、その収益が町外に流出しているという印象を持っている町民も少なくない。観光事業者が地域経済や地域コミュニティに対し、どのくらい貢献

しているのかを、明示的に示す方法の模索を続けるべきだと考えている。

3つ目は、観光地マネジメントの推進体制だ。国際的なリゾート地として、観光地マネジメントやマーケティングをはじめ、人材育成や受入体制などを構築するための推進体制やガバナンスのあり方についての再考が求められている。近隣の市町村との連携による広域観光についても過渡期であり、ニセコ町内の推進体制についても整理しなければならない。



出所：筆者作成

図7 改めて問われる「観光のあり方」(案)

文 献

ニセコ町

2020 『観光入込客数調査』ニセコ町。

ニセコ町企画環境課

2016 『RESAS 政策立案ワークショップ資料「ニセコは観光で稼げているのか」』ニセコ観光圏協議会。

2020 『ニセコ観光圏「来訪者満足度調査報告書」』ニセコ町。

小樽商科大学グローバル戦略推進センター

2018 『ニセコ観光圏「住民観光意識アンケート調査報告書」』ニセコ町。

総務省

2015 『平成17年国勢調査』総務省。

ウェブサイト

ブッキング・ドットコム

2019 「ブッキング・ドットコムが2019年の『サステイナブル・トラベル』に関する調査結果を発表 ～日本人のエコに対する知識不足が世界との差を拡大させる要因に～」, 2019年4月18日, (2020年8月1日取得, <https://news.booking.com/sustainable-travel-report/>).

